



→この冬、営業日の土日祝祭日は雨続きだった。つかのま雨のあがった5日の金曜日、しびれをきらしたように若舟頭は舟を出したが、客は少なかった。お供に愛犬のクマを乗せていた。



↑今週は矢切の台地の話をした。上の村と下の村との境は傾斜林になっていて、そこに一本のムクロジの木がある。今年も実をいっぱいつけた。

若のひとことで、長く続いたクマの話が、どうやら途切れそうだ。「まいったよ、二月は四日しか仕事ができなかった。これじゃ赤字だよ」

昨年十月、大舟頭が亡くなり、一家の戸主になった若舟頭だが、あんがい小心者なのだろうか。キヤタピラーつきダンプカーと私に呼ばれている若にしては、言うことがせこい。

たしかに四月は天候に恵まれなかった。そして三月。初っぱなから土日は雨だった。いくらダンプカーだって、あせるのも、わからなくはない。

そんなわけで、今週は矢切の渡しから少し話題をそらすことにする。

矢切村がふたつに大別できることは以前話した。台地のの上と下の村だ。

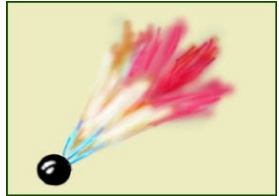
古くからの矢切村は、大日川あるいは太日川、大川と、いくつもの呼び名をもつ大河に削り取られた台地の上にあった。一一九二年、源頼朝は伊豆を追われて房総に逃れ、陣を立て直して鎌倉へと進軍をして行くわけだが、その際、矢切の台地まで来たところで足止めをくらっている。

今週のクマ

最近、先乗りとして舟に乗るようになってから、どことなく風格がでてきた。「かわいいね」とお客さんたちに誉められることで、ついたものと思われる。叱られるより、誉められるほうが、よく人のいうことをきくようになる。



→ムクロジは漢字で「無患子」と書く。正月、子供たちが遊ぶ羽根突きの玉はこの実でつくる。「子供が患うこと無く」育つようにとの願いから正月の遊びになったという。劇画『子連れ狼』のラストシーンには、この実でつくった数珠を持った柳生の忍者が登場する。死しても誰も悲しまない“草”としての忍者の象徴として……。種をおおう種皮は、石鹼のかわりに使われていた。よく泡立つ。



目前の広大な湿原をどう超えようかと
思案した。鎌倉幕府の公式記録、『吾妻
鏡』にも『源平盛衰記』にも見えるが、
二週間近く止まって、最終的には舟を仕
立てて超え、いまの北区王子付近に上陸
して鎌倉入りをしている。

時代は一気に五〇〇年近く飛ぶ。

江戸に幕府を開くにあたって徳川家康
は、江戸城前の海岸を埋め立てて大名た
ちに貸し与えたことと、浅草以东の湿地
帯を人の住める土地にしようと大日川の
流れをかえたことだ。

これによって、江戸川と呼ばれるよう
になり、足立、墨田、葛飾、江戸川に町
屋が誕生。同時に矢切の台地の人たちは、
下において集落を形成していった。

その人々のなかに杉浦家もあった。農
耕のかたわら、葛飾柴又方面へ買い出し
に行く人々を舟で運んでいた。江戸時代
なかごろのことである。一説には元禄時
代からともいわれている。

それは確証がないが、墓石を見ると天
保時代であることは間違いない。その時
代から数えると、亡くなった大舟頭は四
代目で、いまの若舟頭は五代目というこ
とになる。ただし、専業で食えるように
なったのは、そう古いことではない。